

令和6年度 第1回伊予市部活動の地域移行に関する検討会議 会議録(概要)

日時:令和6年5月31日(金)19時~20時30分

会場:市役所3階庁議室

参加者:22人

(1) 昨年度までの取組状況

- 検討会議の開催
 - ・令和4年度に2回、令和5年度に3回の計5回の検討会議を開催
- 先進地視察
 - ・令和5年度には、東かがわ市の地域クラブ活動「東かがわクラブ」の視察。
- 県実証事業により外部指導者導入
 - ・令和5年度に港南クラブとして、港南中学校野球部に大学生指導者を派遣（5回）
 - ・バレーも計画したが、指導者が感染症罹患により未実施で終了
- 方針・計画の策定について
 - ・単独でチームが作れる部活動、合同チーム、拠点校（令和7年度～）を検討する。
 - ・併せて子どものニーズや地域人材を活用できる方法、移動手段、実施場所も検討する。
 - ・令和6年度に各校1種目程度、実証事業を実施したい。
 - ・協力団体（高校・大学・企業等）の模索
 - ・方針案・計画案について本年4月に意見公募（パブリックコメント）実施したが、市民からの意見なし。本日委員会で諮り公表していく。
 - ・検討会議では、令和8年度までに休日の部活動を、令和11年度までに部活動全体を地域移行することを目標設定した。
- その他の取組み
 - ・市ホームページに「部活動の地域移行」のページを作成し、検討会議の議事録掲載
 - ・砥部町・松前町と進捗について情報共有の場設定(今後、継続的に開催予定)
 - ・市広報紙への情報掲載予定
 - ・県人材バンクの活用検討、市人材バンクの作成検討

(2) 今年度の事業計画

- ア 方針案・計画案意見公募結果
 - ・市民から意見なし 検討委員会で承認となる。
- イ 市推進計画の策定
 - ・年度内での策定を目指す。
- ウ 拠点校方式の部活動
 - ・各中学校への聞き取り実施を行い令和7年度開始に向け詳細検討
 - ・今年は実証事業で、港南中野球部の1ヶ所のみの実施中。制度については事前に先生方、保護者に説明。
 - ・伊予中学校の女子バレーは来年度以降、拠点校も視野に準備中。
- エ 外部指導者の活用
 - ・各中学校に説明、推薦書受付
 - ・推薦書が各学校から上がっている状況。保険の加入が完了次第決定通知し、順次外部指導の方の謝金を支払う。

- ・併せて、人材バンクも整備を進めていき、伊予市における人材全体を把握したい。

オ イベント型の体験会

- ・伊予農業高等学校での体験会イベントの開催を提案するとともに、今後は砥部町、松前町とも一緒に協議を進め、伊予高等学校や松山南高等学校砥部分校の方にもお声がけができないか検討する。
- ・今年の10月27日（日）にしおさい公園でスポーツ体験会の開催を予定。今回から、特に中学生に参加してもらい、部活動の地域移行について考える機会の提供を。

カ 保護者・教職員・地域への周知

- ・市内小中学校全教職員向けの説明会実施（5月8日・15日・16日）を3回実施し、職員から出た意見について検討して各学校に連絡する。今後は保護者向けの説明会を開催したいため、日程等調整学校の方に協力依頼をお願いする。

【中学校より】

- ・拠点校方式により小規模の学校が今、部活動をできるというような形に進んでいるというところがあるがたい。
- ・女子バレーの保護者会説明しご理解いただいているので、来年度と言わず少しでも早く拠点校の受入ができたらい。

【教育委員会より】

- ・生徒や保護者の要望を聞いていただいて、学校同士で調整し状況が整い次第、どんどん実現していくという柔軟な対応をしていきたい。

(3) 次年度以降の計画

ア 外部団体との連携

- ・事務局（案）としては、ライフル・ビーチスポーツ（バレー・テニス・サッカー他）ボッチャ・モルック等さまざまな団体の発掘をしたい。
- ・一般社団法人SASAERUとの連携を進めていきたい。

地域移行のパターン ⇒ (P4)

イ 生徒の移動手段

- ・次年度以降のところではデマンドタクシー利用とか、そういうところがうまく形になってくれば、少しでも負担が軽減できて、地域間格差の解消につながればありがたい。

ウ ゴールイメージについて

- ・受入団体が決まり、学校から部活動という名称が消えた時がゴールと考える。

【審議案件1】

ロードマップの令和8年度と11年度の時期についてどのように思われるか。また、受け皿については社会教育課においても関係があることから、それがもうちょっと遅い方がよいのではないかと、非現実的だとか意見をいただきたい。

A：地域移行という受け皿がなくても部活動を切っていくという考え方を周知徹底していくことが一番だなという感じがする。

A：8年度は土日はありませんよって言ったら、きっと本気で考える1年生の保護者が出てきて動きがあるかもしれない。そのためにも保護者会等で説明して理解を求めていかないといけない。

【結論】

議題を乗り越えながら、令和8年度に全面的に休日は地域移行ということでは了承された。

【審議案件2】

地域移行のパターンは、こちらのゴールイメージを持つときに、どう示すかというのも非常に悩ましいところだが、SASAERUさんのような企業において、今後は事務局的なことをしていただくのは非常に効率的で現実的であると考え。それ以外で事務局を考えるのはちょっと難しいという現実があり、行政で事務局を持つと、ずっと教育委員会が持つのかという懸念がありますので、やはり何か事務局的なことをしていただくところが必要にと考える。これについてもご意見をいただいた上で、次回の事務局案を作成したい。

また、パターンの中で総合型地域スポーツクラブ型を本線として進めていくということで、社会教育課の方では定期的にSASAERUさんの方と協議を進めながら、最終的には総合型地域スポーツクラブで、伊予市のそれぞれのサッカーならサッカー、野球なら野球、バスケットならバスケットというようなクラブを立ち上げて、ここで包括して活動をコントロールするという形に持っていきたいということで、協議を重ねていきたいと思う。その中で指導者の確保の問題、移動の問題、こちらについてもあわせて検討して、指導者については例えば地域おこし協力隊の制度の活用や、経費の確保の問題では例えばふるさと納税だったり、ガバメントクラウドファンディングだったりとか様々な資金の獲得の手法がある。そういうことも視野に入れながら、しっかりと経営体制が整えることができるように協議検討を進めていきたいと思う。そちらについても令和8年度のロードマップでは休日は移行されるということですので、そこには方向性をしっかり示せるような形に持っていきたいと考える。

A：部活動というところにとらわれず、何もしない中学生増える中で、とにかく総合的に子供たちが何かイベントに参加して、これやってみようあるとかある意味やってみようというようなそういう場をたくさん設けてもらうのが一番子供のためになるのではないかと。行き先として何かクラブチームに所属してやりますよとかいうようなところに道筋があったらよいかと。まず中学生がもう一つ手前の小学生とかに何かそういうような参加できるような機会がたくさんあればよいかと思う。

【結論】

伊予市の部活動の受け皿として、実情に見合った総合型地域スポーツクラブとして体制を整えてもらいたい。

3 その他

(県教委より情報提供他)

- ・高校の部活動と地域がうまく連携をとって進み始めそうなどの事例紹介では、一つ目は、上島町と弓削高校で、弓削高校にはなりわいを起こす起業という部活動があって、地域の魅力発信のための活動を県の補助事業という形で支援し、中学生と一緒に始めているそうだ。
- ・二つ目は、西予市と宇和高校の陸上部で、市としては練習会場を無償提供し、少しずつ整備を整えていくってというような形でやっている。そこに宇和高校の陸上部が中心になって西予市体育協会で小学校の陸上クラブ、宇和中学校の陸上部、それが同じ会場で練習していて、もうそれを見ると、これが地域移行の完成系であり、理想系なんじゃないかなと思うような活動をした。
- ・県の方からもどンドン市町さんの方には情報提供していきたいと思いますので、今後とも学校の部活動改革と地域移行が両輪となって進んでいくようお願いできればと思う。
- ・部活動に入っていない子どもたちへの対応については、国も、この地域移行につきましては、今学校にある部活動を地域に出して、地域で指導者を見つけるってことを大きな目標にしていることだけではなく、ボールで遊んだりとかちょっと体を動かしたりすることは嫌いじゃないよっていう子たちの活動の場をぜひ地域に作っていただきたいというのがこの地域移行の大きな大きな目標の一つだと思う。そのことから、また次のこの会議までに、PTAの方の中でスポーツじゃないけどこういうことだったら教

えるプロがいるよ、月に1回でも2回でも教えたりとか一緒にお手伝いとかできるよっていうような情報があれば、今後受け皿を探すときに正式な部活動ではなく、いろんなことを一つにしてマルチな活動をするようなクラブができてもいいと思うのでちょっと視点を変えた受け皿作りっていうのもご協力をいただけたらと思う。

・地域おこし協力隊についても国がぜひ活用をと言っているものの中の一つになりますので、限定された年数ではあるが、指導をすることでご自身の今後の活動に繋がっていくっていうようなこともあるので、地域おこし協力隊の活用についてもご検討いただけたらと思う。



